

□講義科目（専門科目）

科目名	スポーツ理学療法学特論	2単位
担当者	小林寛和	
テーマ	スポーツ理学療法は、スポーツに取り組む者を対象としたリコンディショニング、リハビリテーション、外傷予防等で活用されている。その基礎的理論と手法について学ぶ。	
科目のねらい	<p><キーワード></p> <p>① スポーツ外傷の発生機転、発生メカニズム ② スポーツ動作</p> <p>③ リコンディショニング ④ リハビリテーション ⑤ 外傷予防</p> <p><内容の要約></p> <p>スポーツ外傷などにより、スポーツ活動に制約を受けている者への対応の方法と内容について学ぶ。スポーツ外傷の病態と要する評価や理学療法の内容と方法を知り、そこから、安全かつ早期のスポーツ復帰を目標とする対処の考え方と基本的手法の活用方法について理解を深める。スポーツ動作の運動学や動作観察についても内容に含め、外傷発生機転の分析や、スポーツ復帰のための運動療法に応用することも学習する。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的なスポーツ外傷（急性、慢性）の病態、発生機転・発生メカニズムを疾患ごとに説明できる。 2. スポーツ動作の捉え方について、その考え方と方法が説明できる。 3. リコンディショニング、リハビリテーション、外傷予防の概要について説明ができる。 4. 外傷後のスポーツ再開、スポーツ復帰に要する主要な実技が実施できる。 5. スポーツ外傷の予防について、基本的な考え方と方法が説明できる。 	
授業の進め方	<p>第 1 回 スポーツ理学療法学総論、スポーツ理学療法の現状</p> <p>第 2 回 リコンディショニング、リハビリテーションの概要</p> <p>第 3 回 スポーツ動作観察・分析 1：動作観察・分析の基礎</p> <p>第 4 回 スポーツ動作観察・分析 2：走、跳、投動作の観察・分析</p> <p>第 5 回 膝外傷後のスポーツ理学療法 1：急性外傷後（術後例含む）</p> <p>第 6 回 膝外傷後のスポーツ理学療法 2：慢性外傷後</p> <p>第 7 回 足部・足関節外傷後のスポーツ理学療法 1：急性外傷後</p> <p>第 8 回 足部・足関節外傷後のスポーツ理学療法 2：慢性外傷後</p> <p>第 9 回 肩外傷後のスポーツ理学療法 1：急性外傷後（術後例含む）</p> <p>第 10 回 肩外傷後のスポーツ理学療法 2：慢性外傷後</p> <p>第 11 回 腰部外傷後のスポーツ理学療法 1：筋性腰痛</p> <p>第 12 回 腰部外傷後のスポーツ理学療法 2：器質的疾患に起因する腰痛</p> <p>第 13 回 スポーツ外傷の予防</p> <p>第 14 回 スポーツ理学療法で用いるテーピング、足底挿板</p> <p>第 15 回 まとめ</p>	
事前学習の内容 学習上の注意	<p><事前></p> <p>授業の終了時に次回の内容を説明するので、その内容に沿って予習をする。（1時間）</p> <p><事後></p> <p>授業内容の復習をする。（1時間）</p>	
本科目の 関連科目	スポーツ医学特論、その他、身体運動、トレーニングに関わる科目	
テキスト	特に指定しない。映写資料に基づいたレジュメを使用。	
参考文献	小林寛和（編集） アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング（上巻）、（下巻） 文光堂	
成績評価方法 と基準	レポート・課題・授業内での実技確認等（50%）、期末試験（50%）	